

## 第26回震災対策技術展 研究で開発した技術を出展

寒地技術推進室

寒地土木研究所では、外部主催の技術展示会等に開発した技術を出展し、その普及に努めています。今回、2022年2月3～4日に開催された震災対策技術展（会場：パシフィコ横浜）に、「3D浸水ハザードマップ作成技術（寒地河川チーム）」と「排水ポンプ設置支援装置（自走型）（寒地機械技術チーム）」を展示しましたので、その結果を報告します。

## 1. 震災対策技術展の概要

本展は、1995年の阪神淡路大震災の後、災害時に役立つ技術等を広く発信する場として全国各地で開催され、横浜では26回目となります。

155団体・企業からの出展があり、2日間で6,522名が来場されました（写真-1）。

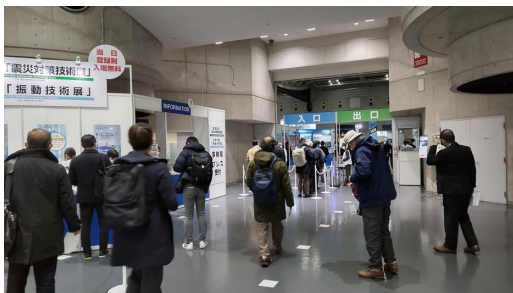


写真-1 震災対策技術展（パシフィコ横浜）

## 2. 展示した技術の紹介

## 2. 1 3D浸水ハザードマップ作成技術

本技術は、河川の氾濫等における想定浸水状況をGoogle EarthやStreet Viewに描画する技術で、想定浸水深を直感的に把握することができます。マップ作成のアプリ等が無料でダウンロードできるため<sup>1)</sup>、想定浸水深のデータを別途入手すれば、PCにある程度詳しい方であればマップを独力で作成できます。視覚的にわかりやすい形での浸水リスク情報の提供により、国民の水害に対する意識醸成に役立つと期待されます。

ご来場の方からは、「浸水状況の3D表示により、災

害対応意識の高まりに有効」、「土砂災害にもこの技術を活用できるのではないか」等のご意見を頂きました。

## 2. 2 排水ポンプ設置支援装置（自走型）

災害時の排水作業は、軟弱地盤や積雪等により、排水ポンプ車の搬入や排水ポンプの設置が難しく、迅速な作業に支障が生じます。また、作業員の高齢化が進む中、作業の負担軽減が求められています。

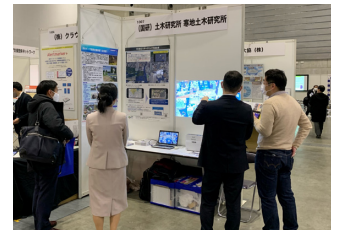


写真-2 来場者への説明

本技術は、排水ポンプの安全かつ効率的な設置・回収が図れる、自走式の排水ポンプ設置支援装置です。

ご来場の方からは、「地域における作業人員の担い手不足の中、この技術は地域を支える極めて重要な技術だ」等のご意見を頂きました（写真-2）。

## 3. おわりに

寒地土木研究所では、開発した技術の普及を図ることで社会に貢献するとともに、引き続き、皆様からのご意見を参考にしつつ、国民生活に役立つ技術の開発を進めて参る所存です。

なお、本展で紹介した技術以外にも、弊所が開発した約50もの技術をHPで紹介しています。以下URLかQRコードからアクセスして頂けますと幸いです<sup>2)</sup>。

最後に、本展の出展に多大なるご協力いただきました、本展主催者や関係各チームに感謝申し上げます。



1) 3D浸水ハザードマップ作成技術HP

<https://river.ceri.go.jp/contents/tool/3d-manual-zip.html>

2) 開発技術の紹介HP

<https://chouseikan.ceri.go.jp/suishin/gijutu.html>

(文責：白戸 義孝)